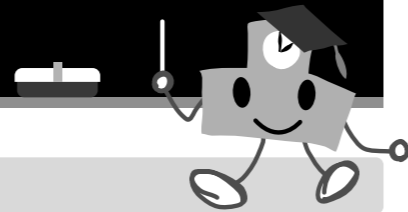


小学校の事例 白石区 北都小学校

牛乳パックリサイクルやリングプル回収から日常的なエコへの意識を育む取組へ。

高学年から低学年へ。
開き方伝授で牛乳パックリサイクルの活動が
エコへの日常的な取組に進む。



内容 子供たちが責任をもって活動!!

本校では給食後、牛乳の紙パックを子供たち一人一人が洗って開き、乾かしたあと、児童会のリサイクル委員会に所属する児童が全クラス分を回収している。パックの開き方が雑になっていると箱入れがうまくいかないで、ときどき委員の子供たちが教師に「この角をもうちょっと開くようみんなに伝えてください」と教えるなど、責任感をもって活動にあたっている。



パックをたばねます

効果 6年生と1年生の交流

1学期には、高学年が新1年生にパックの開き方を教えており、入学間もない1年生が学校になじむための交流にもつながっている。高学年から低学年へのパックの開き方の指導は、低学年にとっては教えてもらえる嬉しさとなる。また高学年にとっては感謝される喜びになり、「いいことをした」という実感から、「もっと環境を大切にしよう」といった意識につながると考えている。



修学旅行でも

本校では、6年生の修学旅行でリサイクル企業の見学を行っている。リサイクルの現場を観ながら「1リットルパックなら4つ、給食の時に飲んでる紙パックなら20個でトイレトーパー1ロールになる」という具体的な説明を受けており、これが子供たちにとってはリサイクルの大切さを実感する機会となっている。

発展 日常の中にエコ行動を広げる

牛乳パックのリサイクル活動で生まれたエコに対する意識をさらに広げていけるよう、本校では、夏休みと冬休みの計画表に「学習のめあて」「お手伝いのめあて」と一緒に、「エコのめあて」を書く欄を設けている。毎日記入するものなので、家族全体でどのようなエコ行動を行ったかを意識するようになり、日常生活の中で自然とエコを心がけることが身につけてきている。



夏・冬休みの生活表

リングプル回収の取組も委員会を中心に進めている。集めたリングプルで、車いすをいただき、学校で使用している。2台目は、地域のグループホームに寄贈するなどリサイクル活動をとおり、地域の方と心の交流ができた。



リングプル集めです



JRの駅でも協力していただいています

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

「どうして牛乳パックなの?『びん』の方がいいんじゃないの?」という児童の疑問が出ることがあります。この質問については学年によって説明や理解の仕方が変わってくるのでとても難しいです。

例えば高学年には「『びん』はいいけれども全校児童の分になると、とても重いよ。そして使った『びん』を洗うために使われる水はどれくらい必要になるかな?牛乳を学校に運ぶためにトラックを使うんだけど、一台のトラックで運ぶ時には『びん』よりも紙パックの方がたくさん積むことができるんだ」といった情報を教えることもできます。その他に「トラックを動かすために使われるガソリン代を輸送コストというのだけれども、この問題ははどうだろう?」など関連して教えられることはたくさんあります。

これは、子供たちがその情報を受け取って、判断する力をつけていくためには大切なことなのですが、慎重に向き合っていかなければならないと思っています。